

夜間学校 ニュース

1988年 5月 6日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

みんなで つくろう
みんなの 会館

毎週金曜日
夜七時より
市民館三階
釜ヶ崎夜間学校

三人よれば 何とかの 知恵

世の連休なんかメじやない

我らの なやみ

昨年度だか今年度だかの
官民の設備投資額の合計が
六十何兆円だとかで、史上
最高の記録という新聞記事
あるいは、事業量が確保さ
れているので、今年度は久
し振りにいよいよ事業の前倒し
はおこなわれない、などの記
事を讀んだのは、二月から
三月にかけてのことだった
よりの気がする。

三月の事業量もあつたの
で、今年はそう大きな落ち
込みはないと思つていたの
だが、やはり、こいりか、
四月十日すぎには、ハツキ
リと事業量が落ち込んだ。
さて、五月の連休も終め
つたわけだが、仕事の動き
はどのようになることだろうか。
今日はとりあえず、アブ
しをみてこんで休みの仲間

文字を覚えたい仲間へ伝えて！

夜間学校ニュースを配つ
ている時に、わし、読まれ
へんから、いらん、と言わ
れることがある。
前々から、字を覚え
たい仲間のために、少
くでも役に立つことを
したいと考えていたが、
ふんぎれないでいた。
ところが、最近、夜
間学校で字を教えるこ
れるといつので、こた
ずぬてきた仲間がいる。
その日から、夜間学校に
識字部門ができたといわ
れた。文字を覚えたいとい
う仲間に、このことを伝えて

仲間の死

本籍・住所・氏名不詳。
年齢42歳の男、身長165センチ、
中肉、短髪、着衣白色
長袖カーディガン紺色半袖
シャツ、白シャツ、白色ズ
ボン白ステテコ、水色紺縞
パンツ、遺留金品現金12万円
右の者は、昭和50年5月
13日午後10時ごろ、西成区
萩之茶屋3-5-38南海高
野線萩之茶屋駅下り線路上
にて発見されたもので、同
日午後10時ごろ、同所にお
いて頭部挫滅、頭部軋圧に
より死亡したものと思われ
る。

世の中ゴールデン
ウィーク、大企業で
は二日、五日ま
での日連休があたり
前とか。

日雇やつてると三
連休なんかはザラに
あるが、今までにゴ
ールデンウィークに
世間なみに休んだこ
とはなかったのだが、
今年はずっと借金

をく、世間なみに…
まず四月二九、三
十日は東京へ、池袋
でおこなわれた「今
天皇制を問うフォー
ラム」に参加。三十
日には「寄せ場」と天
皇制」という分科会
があったので、「寄
せ場学会」のつぎ

あいつもあつての参加というわけ。
五月一日は、埼玉県は所沢で
おこなわれた「ジャパゆきさん」

「日本寄せ場学会」

第二回総会特別決議

「日本寄せ場学会」は、東京・山谷の地において日雇労働者の権利を守り、その拡張のために闘い続けている山谷争議団と、天皇と「日の丸」を掲げ、暴力で労働者を支配し暴利をむさぼらんとする山谷争議団に襲いかかった天皇主義右翼暴力団「国粹会・金町一家」との闘いの最中に結成された。

本学会の結成の最初の立案者であった山岡強一氏は、映画「山谷」やられたらやりかえせ」の監督佐藤満夫氏が、撮影現場で金町一家西戸組の刺客によって命を奪われた後を引き継いで映画を完成させた。だが、彼もまた金町一家の刺客によって、「日本寄せ場学会」の創立に立ち会うことなく、その生を無理矢理閉じさせられたのである。

もとより、本学会は山谷の地において、あるいは釜ヶ崎や寿・笹島などの「寄せ場」において、直接に闘争を担うものとして結成されたものではない。「文学・科学研究は、寄せ場の仕組みを見通すことができているか、寄せ場を生きる人間の重さに答えることができるか。寄せ場が提起する思想を対象化することができているか。そして寄せ場に何かを投げ返すことができているか。そもそも寄せ場とはいったい何か。寄せ場労働者とはだれか。寄せ場の抑圧の意味とは何か。そして寄せ場の希望とは何か？」の問いを共通の課題として、まず、寄せ場研究に携わる者、関心を抱く者が、ともかくにも一堂に会すること。…寄せ場を愛い、寄せ場に魅せられた研究者の切磋琢磨の場（創立よびかけ文）として結成されたものである。

しかしながら、結成とこの一年の活動は、二人の死とそれを痛苦の思いで乗り越え、闘い続けている日雇全協の力とそれを支えている「寄せ場」労働者に魅いられた所作であることは各会員の認めるところであろうと思う。

二年目の一歩を踏み出すにあたり、「寄せ場」への熱い連帯の思いを再度確認するとともに、その思いの背景にあったものをより明確に見つめなおさなければならぬ。

この一年の間に思想・言論の自由に対する攻撃は激化している。連続してい

に闘う全国会議。
五月三日は、昼は大阪市内で
の、夜は西宮での、昨年の朝日

新聞阪神支局襲撃事件と言論の自由を考へ
る集会。四、五日はフイフイ急げグセが出
ての休み。すべてをたてつけ

る朝日新聞社に対する襲撃は、朝日新聞の「反日言論」を物理力と古き良き日本天皇の力を借りて封じ込めようとの意図でなされている。沖縄においては皇族警備の名のもとに法を無視した弾圧が警察と民間団体が一体となった形でおこなわれた。そればかりではなく、沖縄の歴史とウチナンチュウの意志を無視した日の丸強要に抗議した行動は、日の丸を掲げる右翼の暴行にさらされ、チビチリガマの像は破壊された。また、日本赤軍関連を名目になんの根拠もない家宅捜索令状が発行され、全国的に多数の人々を対象とした警察による思想的根拠もなく民族差別を煽る大キャンペーンが展開され、在日朝鮮人子女に対する卑劣な暴力事件が続発していることも、きわめて異常な事態と言わざるをえない。

我々が関心をよせる「寄せ場」では、思想・言論の自由に対する攻撃に先行し、あるいは相剽的に差別・襲撃事件が頻発している。山谷においては青少年によって野宿を余儀なくされていた労働者に暴行が加えられ、道行く労働者が刺されるといふ連続した事件がおこり、円高不況の名のもとにおこなわれた企業の過剰防衛的といえる合理化という名のクビ切りによって反発された労働者の増加によって、労働者人口が急増した釜ヶ崎においては、見掛けの好況の影で、高齢・病弱の労働者が野宿をよぎなくされ、山谷と同様に若者たちの襲撃にさらされている。

これらに共通するものは、「良き日本文化」天皇」という一色の価値観を掲げ、他の価値観を物理力と恐怖で押し拉がんとする傾向である。であるがゆえに、これらの思想と言論の自由を掛けた攻撃は、天皇主義右翼暴力団と闘い続ける寄せ場労働者に熱い連帯の思いを寄せ、「寄せ場」の現実と各自の思想をよりどころとしての新たな価値観の創造によって、既存の価値観に言論による闘いを開始せんとする我々に掛けられた攻撃でもあると認識せざるをえない。

「日本寄せ場学会」に集う我々は、二年目の第一歩をしるすにあたり、かく宣言する

これら、連の思想・言論統制策動に断固として抗する姿勢を満天下に示し、日常の生活・研究・言論活動において退却せざることを。

「寄せ場」の現実に依拠し、言論による戦線を展開することを！

九八八年四月三日